

「^お上山城^ろ」からのたより 初春・第188号

隠居した藩主は日々何をして過ごしていたのか

(公財) 上山城郷土資料館学芸員 長南伸治

個人的なことでは恐縮ですが、筆者は今年四〇代半ばを迎え、前にもまして「定年後何しようかな？」と真剣に考えるようになってきました。そんな折、一八三一（天保二）年に上山藩主の座を退き、江戸で余生を送った松平信行の生活を記した古文書（上山藩士三輪十郎左衛門の日記／上山市教育委員会所蔵・上山城保管）を目にしました。

さぞド派手な生活を送っていたのではと思いつつ読み進めてみると、意外な事実が判明しました。今回は元上山藩主の意外な生活を少しご紹介いたします。

概ね引き籠り生活

松平信行の外出は年間三十日程度で、外出目的は寺社参詣・相撲

見物・藩主との面会など多岐にわたっています。外出時は数人〜十数人の供を連れ、帰り途中に飲食店に立ち寄り酒宴を催すことが半ば定番であったようです。

なお、年間三三〇日ほどは藩邸に居り、上山藩士や客人と面会するなどして

いたようですが、その殆どは何の用事もなく過ごしていたようです。

息子や部下に贈り物

松平信行は息子の藩主松平信宝に対し目度い事があるたびに「干鯛」を贈っています。ちなみに、信宝は贈り物の返礼として同じ「干鯛」を贈り返しています。

また、折に触れて部下（藩士や女中）に装飾品・飲食物・金銭などの品を贈ったり、自身も古着を譲り渡したりもしています。三輪家には藤井松平家の家紋「酢漿草紋^{かたばみもん}」入りの羽織（掲載画像）が残されていますが、それは元藩主の古着だった可能性があります。以上、それなりにお金はかかっていたと思われませんが、引退後の藩主は、それなりに「地味」な生活を送っていたことがわかります。意外？ それとも予想通り？ 皆さんどう感じましたか。感想を聞かせてもらえると嬉しいですよ。



【常設展示室から】抽選で景品が当たる「クイズ上山城探検」を毎月実施中。クイズを解きつつ、ご見学をお楽しみください。